

## 社会厚生常任委員会行政視察報告書

1. 日 程 平成 29 年 2 月 6 日（月）～7 日（火）
2. 視察先等 栃木県小山市 人口 166,368 人（平成 27 年 10 月 1 日現在）  
面積 171.76 km<sup>2</sup>  
千葉県印西市 人口 96,802 人（平成 28 年 10 月 1 日現在）  
面積 123.79 km<sup>2</sup>
3. 視察事項 小山市 ・介護ボランティア支援事業について  
・開運おやま健康マイレージ事業について  
印西市 ・病児・病後児保育について
4. 視 察 者 委員会 滝沢 茂秋 委員長 中野 元栄 委 員  
大平 一貴 副委員長 安田 憲喜 委 員  
保坂 裕一 委 員  
当 局 山田 巧 健康課係長  
随 行 吉田 和実 議会事務局主査

### ◎小山市の概要

台地にあり、西の低地から見ると小さな山の形をしているところから「小山」という名称となった。

水と緑と大地の豊かな自然に恵まれ、農・工・商の調和のとれた都市である。

現在は、徳川三百年の栄光への道筋をつけた天下分け目の軍議「小山評定」の開かれた「開運のまち」として全国にアピールするとともに、産業・都市・教育基盤の整備、子育て支援・少子化対策、高齢者・障がい者福祉、社会保障、保健・健康づくり、医療の充実などにより、小山に「人と企業を呼び込む施策」を推進している。

### ○介護ボランティア支援事業について

#### 【制度の目的】

介護保険法に掲げる地域支援事業として、60 歳以上の元気な高齢者が、市内の

定められたボランティア活動を行うことで、社会参加を促進し、社会に貢献するとともに、自身の健康を維持し、いつまでも自立した尊厳のある生活を送ることを目的とする。

#### 【内 容】

60 歳以上の元気な高齢者の方に、介護予防に資するためのボランティア活動をしていただき、その活動の実績を評価した上で、介護ボランティア活動評価ポイントを付与し、1 年間ポイントをためていただき、翌年度にポイント数に応じた転換品を贈呈する。

#### 【活動の対象】

市内 31 カ所ある「いきいきふれあいセンター」において、地域の元気な高齢者が集い様々な交流事業を行っている「いきいきふれあい事業」に対する個人のボランティアと、送迎・傾聴・レクリエーション指導等、高齢者を対象としたボランティアを施設等で行っている団体。

#### 【参加数】

平成 29 年 1 月 1 日時点で個人、団体所属人員あわせて 1,009 名が参加している。

#### 【特 色】

より早い段階での社会参加への動機付けを目指すため、平成 27 年 4 月から、65 歳以上だった対象年齢を 60 歳以上に引き下げた。なお、平成 27 年制度改正により、介護ボランティア支援事業は、地域支援事業の任意事業から介護予防事業に移されたため、60～64 歳の事業費は一般会計からの持ち出しにより運営している。このような年齢の引き下げによる効果で、対象者の拡大が実現している。

#### ○開運おやま健康マイレージ事業について

#### 【制度の目的】

市全体の健康づくりの気運を高め、全ての市民が主体的に健康づくりに継続して取り組むための環境づくりを目的とする。

#### 【内 容】

健康マイレージ事業には、地域版と学校版の 2 つの取り組みがある。

地域版は、市内に住所を有する 16 歳以上の方を対象とし、ポイントカード付パ

ンフレットを健康増進課窓口等で入手後、健診の受診、ウォーキング、市の認定事業への参加などのポイント配布対象イベントによりポイントを集め、点数に応じて市内サポート店でサービスが受けられる健康パスポート、道の駅思川の商品券、市内小中学校 PTA への寄付を選択できる。

学校版は、市内小・中学校を対象とし、生活チェックシートを配布、各校で取りまとめ健康増進課へ送付する。その後、学校へ褒賞品として図書カードを送付し、生活チェックシートの内容については各校で活用していただく。

### 【所 感】

小山市は、市民が楽しく健康づくり、生きがいつくりに取り組んでいただけることを目的とした事業により、居住する喜びを生み出そうという姿勢が強く感じられる。これらの取り組みが、今後の市全体の健康、ボランティアへの関心の高まりや地域活性化につながることを願う。

### ◎印西市の概要

千葉県の北西部に位置し、北部には利根川、北西部に手賀沼、南東部に印旛沼があり、標高 20～30m 程度の平坦な台地と、沼周辺の低地部から構成されている。また、千葉ニュータウン区域が広がり、良好な住環境に加え、大型商業施設、大学、病院、金融機関のデータセンターなど多くの都市機能が集積している。一方で良好な農業環境にも恵まれ、里山など豊かな自然環境が広がっている。

平成 22 年の成田スカイアクセス開通により、東京と成田国際空港の中間に位置するという優位性から、産業・経済・文化など、どの分野でも将来性が期待できるまちとなっている。

### ○病児・病後児保育について

#### 【内 容】

平成 25 年 4 月より、印西総合病院に委託し、実施している。乳幼児、児童が病気の回復期または病気中のため、集団生活や家庭での保育が困難な場合に、医療機関等に付設された専用スペース等において一時的に保育するものである。

施設名を病児・病後児保育施設「おひさまルーム」とし、生後 57 日目から小学校 3 年生まで、印西市に住所を有する児童または市内の保育所、幼稚園、小学校等に通う児童を対象とする。月曜日から土曜日までの 8 時から 18 時まで、日額利用料 3,000 円（食事代等の諸経費含む）で事前登録が必要。ただし当日の登録も受け

入れる。

#### 【現 況】

小学校高学年については、利用対象拡大の声もあるが現状行っていない。施設の面積、主に利用するのは0～2歳児が多いため対応が難しい。

対象人口 6,254 名に対し、年間利用者数は 480 名（平成 28 年 12 月 31 日までの 1 年間）、うち病児保育利用者 211 名、病後児保育利用者 268 名、その他 1 名となっている。（利用率 7.7%）

現在、病児・病後児保育室にある隔離室は、完全に陰圧された部屋ではないため、感染力の強い病気に罹った子供を受け入れできない。

また、麻疹・風疹・おたふく・水痘・百日咳・感染性胃腸炎・結核・髄膜炎菌性髄膜炎・咽頭結膜熱（プール熱）の目の症状のある者については受け入れていない。インフルエンザについては解熱後、学童 2 日、乳幼児 3 日の経過と全身症状が良い場合に限り受け入れている。

#### 【所 感】

事業が始まって 3 年が経過し、利用者が増えつつあること、新たに学校が設置されるなど対象者の増加が見込まれることから、同地域において、子育て支援の施策として今後より必要性が高くなると思われる。実際に利用者からは、施設の増加を求める声も出てきているとのことであった。

加茂市と田上町で、今後開設される県立加茂病院に隣接した病児保育施設について考察する際には、ぜひ今回の視察内容を参考にしたいと考える。